

予算特別委員会

一般会計では約8,500万円を増額補正

6月17日に委員会を開催し、付託された10議案について審査した結果、全て可決すべきものと決しました。主な質疑は次のとおりです。

一般会計補正予算

Q 緊急雇用創出事業の県補助金599万円は東日本大震災の復興予算として計上され、被災者支援が目的のはず。目的外使用に当たらないか。

A 観光分野での雇用拡大のため新規の雇用を行うもので、被災者を除外している訳ではありません。

Q 市有地有効利用研究事業（下呂温泉病院跡地と旧下呂館跡地の利用計画）と地域げんき未来塾との兼ね合いはどうなるのか。

A 未来塾は継続しますので、必要であればこの事業と連携をとることになります。

Q この事業は市長の諮問機関をつくるものなのか。この事業には全産業から参加できるものなのか。

A 市長の諮問機関ではなく、市民の皆さんから広く意見をいただき、まとめるための機関です。

Q 中長期的な視野にたつて横断的に市の将来像を示すべきである。市有地を売却することも一つの方法ではないか。

A 厳しい財政事情のなかで、市民の皆さんからご意見をいただき、民間の考え方も取り入れながら調整や検討・研究を進めていきます。

Q ファミリーサポートセンターの事業内容について伺う。

A 367人の会員相互による子育てサポートを行うもので、子供を預けたり預かったりの取りまとめを行っています。

Q 元気な農業産地構造改革支援事業はシイタケ栽培に限定されているのか。

A 県単独補助事業で、シイタケやその他キノコ類の栽培に活用でき、農家の冬場の支援としても有効です。

特別会計予算

Q 小坂診療所の外来看護師が2名減とある。診療体制に影響はないのか。

A 看護師4名で2診療を行っていただきます。診療体制については特に影響はないと思われます。

◆一般会計の主な補正予算

◎市有地有効利用研究事業

市民参加型の研究・勉強会

121万円

◎元気な農業産地構造改革支援事業の採択を受けたもの

シイタケ栽培ハウスの建設

355万円

◎緊急雇用創出事業臨時特例基金事業の採択による追加

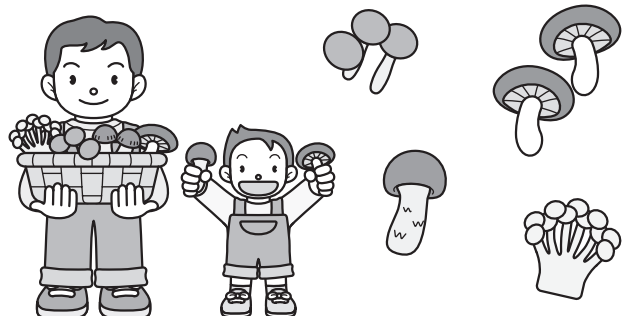
小坂の滝めぐりガイド2名の育成

599万円

◎下水道事業特別会計への繰出金

小坂町坂下地内に建設予定の介護施設にかかる
下水道排水量調査設計委託費用相当分

1, 178万円



一般質問 11人が市政を問う

情報を一元化した
市民力レンダー作成を

◆経営管理部長

現在、市の情報発信ツールとしては広報誌・広報お知らせ版・ホームページのほか防災行政無線・安心安全メールがあります。これらに掲載している行事を集約した「市民力レンダー」の発行ができないか、とのご質問ですが、今年度ホームページの見直しを行う予定にしています。その中で市が行う事業等について、集約してお知らせすることは可能だと思いますので検討していきます。

水源地を守るための対策強化を

◆農林部長

林野庁によりますと平成23年度末には外資による森林の買収は49件で、約760ヘクタールあると報告され、これも氷山の一角と報道されています。県では水源地域を保全するため、岐阜県水源地域保全条例を今年の4月から施行し、10月から水源地域として指定された土地を売買する場合などは、事前に県に届出が必要になりました。今後は国や県の動向を踏まえ情報



10 番

服部 秀 洋 議員

を共有し、水の安全確保に努めます。

益田川沿い

◆建設部長
ウォーキングコースの整備を

益田川沿いのしらすぎ緑地間をつなぐ遊歩道は、県で整備していただき、ウォーキングコースとして市民や観光客の皆さんに利用されています。

市で整備した少ヶ野地内のしらすぎ緑地は、下流への通り抜けが出来ないので、ここから戻るコース設定としています。河川兩岸を繋ぐ歩道橋を架けるとなると4億円以上の事業費を要します。それより、下呂大橋は昭和39年に完成し49年が経過しているので、この橋の長寿命化、耐震化が急務であると考えています。



益田川沿いウォーキングコース

地域おこし協力隊の導入を

①昨年度より市内各地で「地域げんき未来塾」が始まりました。各地での夢を実際に活動に結び付けるためには、事務局や宣伝等を行う人材が必要です。そこで国の制度の「地域おこし協力隊」を早く制度化して、様々な計画や夢の実現に早く進めるべきでは

◆経営管理部長

「地域おこし協力隊」は平成21年度から制度化されたもので、市内の団体からも活用したいとの声が出ています。市では活用している自治体の視察や情報収集を行いましたが、成功するには隊員個人の資質によるところが大きく、受け入れ体制などにもより、うまくいかなかった地域もありました。こういった課題の対応を考え、導入を検討します。

②地域の活性化に対して農林業政策をどう執り行うのか、市独自の農林産業の振興策が必要である。木材価格の低迷で林業が大変な状況になっていると言われているが政策はあるのか。

◆農林部長

「植えて、育てて、伐って、使う」



4 番

今井 政 嘉 議員

という林業サイクルの中で、材価の低迷により「使う」という流れが停滞し、林業全体の低迷につながっています。「使う」事を進めるため、市では新規着工住宅への支援や、薪・ペレットストーブの新規導入支援を行っています。昨年度策定した「下呂市公共施設等における木材利用方針」に基づき、積極的な木材利用等を次のステップと考えています。

部活指導にガイドラインを

中学生にとって部活動はとても重要な活動です。しかし部活動の指導者はボランティアに依存しているのが現状です。そこで下呂市として指導力強化のために予算措置を行うなど、下呂市全体で青少年の育成を目的とするガイドラインの策定が必要であると思うが

◆教育長

どの中学校も外部指導者として社会人コーチを委嘱しています。技術的な指導や生涯学習の面から地域の指導者との連携は大切です。一方、教員・社会人コーチを含めた指導者による「行きすぎた指導」等の課題も少なからずあります。ご指摘のガイドラインですが、先日文部科学省から運動部活動の指導に関する調査研究報告書が提示されました。これを参考に中学校長会とも協議を重ね検討します。